

中津川市総合計画審議会
第4回防災・環境部会要旨

平成25年10月28日（月）
午後6時55分 開 会

部会長あいさつ

1. 各委員から提出された資料について

（丸山充信部会長） 今回皆さんからいただいた資料の確認をお願いします。

（加藤雄一郎委員） 前回の行政資料をもとに市の担当課と話をして作成した。大分類、中分類はほぼ市のものと変わらない。市の担当者と私の意見が一致したところだが、市民活動で一番大事なことは市民活動団体、NPO、ボランティア団体を取りまとめる中間支援センターを早期に設立してほしいということ。これはボランティア団体が何かをやろうと思っても資金不足や情報不足で個々に動いているので、専門機関が取りまとめてそこで情報を集めて共有できて次に何をやるのか資金面でも何かしらができるような取りまとめの支援センターを設立してほしいということでまとまった。キーワードは「市民協働で行うまちづくり」で、行政だけではなく市民も参加しやすいまちづくりを行ったほうがいいと考えた。将来都市像は「自ら考え行動し自立した市民」「みんなでつくるなかつがわ」「市民参加型のまちづくり」を提案します。

地域コミュニティの主な内容として、地域自治組織はほとんどが区長のくくりの中で動いていて、行政から様々なことを区長にお願いしているが、業務が雑多な中でなかなか新しい取り組みができないので、組織の見直しや区割りも考えないといけないのかなと感じた。

地域づくり協議会は中津地区の中心部に協議会がないので、これも早急に作ってもらって、周辺部と中心部と同じような体制でいけるといいかなと感じた。地域公共交通はコミュニティバスの活用に絞られてくるが、コミュニティバスを充実させると企業の負担になりかねないところもあるので、使う受益者の実態を調査して、そのうえで均等になるような運営ができればいいと感じた。公共交通については受益者負担もある程度加味しながらやってほしいと感じた。キーワードは「便利で住みやすいなかつがわ」「住民にやさしいふるさとなかつがわ」を提案します。

（栗谷本副部会長） 前回の行政資料の自然環境と再生可能エネルギーの項目を全部洗い出したら膨大な資料になったので1枚にまとめた。柱としては経済が潤うことも大事だが、人と自然があって心が豊かになるということで、安全・安心が宿る中津川を目指せるので、「人と自然が協働する中津川を育てます」という柱を立てた。大分類として中津川は非常に自然が豊かなところなので「現有資源（自然、人、物、方法）を見直し活用します」です。「中津川の有用資源を発掘、磨き、経済

効果を生み出します」は林業、観光をなどすべてのもので経済効果を生み出すような形にしたいということです。中分類で「森」、林業も水に関わってくるので「世界の宝、日本の宝、中津川の宝を磨き活用します」です。「水」は中津川市だけではなく下流域にも関係してくるので、森林を整備するということで「命の源 水を育み、付加価値を高めます」です。もしかしたらいい水が出て産業につながるかもしれないということです。「人」については、自然やいろんなことに関わる「人を育て次世代につなげます」です。どの団体も高齢化して次世代が育たないので、中津川市民がインストラクターとなって各分野で活動できるようになるような人材を育てたいということです。もう一つは大分類として「自然財産を保全し活用します」ということで、中津川の自然の何がどう豊かなのか、何が自生しているのか、何が減ってきているのかどう荒れてきているのかというデータが中津川市にはないので、それを調べて把握するということで、基準となる基礎データをまず作って、これが基準となって工業開発などいろんなことに物事を言えるというもので、調べるだけではなく「学び 備える」「学び合い多様な分野に働きかけます」、もう一つの中分類として「考え 行動する」「あらゆる主体と連携協働し社会を育てます」ということで、この裏にはデータがたくさんということの中でこういう結論に達した。

(田中委員)

課題は行政が考えたものとそれほどかわらないということで、小、中分類から将来都市像までの言葉を考えた。自然環境では取り組み（小中分類）で「里山林の整備・活用」で、中津川の自然は人との付き合いによって成り立っている部分が産業も文化もすべてであると思うが、そのうち最も取り戻すべきものに里山の環境があると思う。資源として活用するにも自然として活用するにも里山の整備・活用がキーワードではないかと思った。加子母では上下流の交流でいろんなイベントがあるが、現状を打破するような活動になかなかつなげていないので、せっかく都会から林業に携わりたいと言っても、実際は世話するだけで手一杯という現状があるように思うのでもう少し発展していくような活用方法が必要かなと思う。あと中津川市は川が魅力的で、いろんな川があって遊び方があって文化もあるが、あまり川に親しめる条件がないので、市民が親しめる川環境があってもいいと思う。「小さなところからはじめる地域木材の利用」。既にたくさんの事例があるがは小さなところからコツコツとということかなと思う。再生エネルギーは中津川市にはたくさんの木質資源があるのに技術の問題やコストが高いことが課題として上げられているが、周辺地域でも木質資源の活用事例は増えてきているし技術も進んできていると思う。岡山でもそれで経済が回るような事例があると思うので、「環境が似た周辺地域の取り組み」からまねをしていけば、いちばん使いやすい資源だと思うので再生エネルギーとしては有力だと思う。

あとは水を利用した「小水力・マイクロ水力発電」は歴史のある取り組みなので、これはリードするくらいの取り組みを期待したい。

大分類は「低エネルギー、低コストの施策」ということで、できるだけ地産地

消を中心として地元の資源を生かすことが、そのまま自然環境の改善につながるし再生エネルギーの利用にもつながると思う。キーワードは「自然と共に暮らしてきた知恵を活かす」「住みたくなる」ような中津川とか「誇りを持てる」ふるさとかなと思った。あとは「次世代の自慢のふるさとへ」ということで「自然は無限の財産」ですということです。将来都市像は「中津川らしさ」を深める」ということで、他と違うおもしろいことをやっているところが出るいいと思った。

(波多野委員) 先日担当部へ行って説明を受けた。現状は全体的に不足しているが、将来像としてはきちっとしたものが出ている。ただし施設によっては住民や地域の反対もあってなかなか決定しないようであるが、予算的措置や市側としては確固たるものを持っているようだが難しい面もあるようである。将来都市像は「ゴミ・し尿施設の役割は、生活基盤整備と環境保存の調和度を高めること」だが、わかっていてもなかなかできないというのが現状である。それからMICS事業もできていない。他の自治体において汚泥を処理してもらっているのに、早急に施設を作らないといけませんが、いつできるかははっきりしていない。どこに住んでもいいが、自由にし尿もゴミも集めるというのではなく、ここに住んでくれたら環境もよくできるということを、市民や新しく引っ越してくる人にも知らしめることもできたらしめていくべきではないかということです。あまりに自由な住環境にすると収集がつかなくなるのではないかと思った。社会主義ではないがそれに近いようなものの考え方を少し入れないと、リニアなどで流入人口がたくさんあった場合は大変ではないかと思った。大変難しい問題が山積みだと感じたが、いずれはそれを解決していかないと中津川市が成り立っていかないと考えた。

(曾我委員) 「人・水・緑が輝く活気に満ちた美しい中津川」が将来都市像で、それに向けてのキーワードは「人のつながり」「町の賑わい」「自然の潤い」を挙げ、次期総合計画に向けて区長会、消防団で思うことを肉付けた。行政でやっている部分と重複する部分がたくさんあって、これを全部やると非常な量で、こういうことも必要でないかということで挙げた。

災害対策でこれから問題になってくることは、少子高齢化を踏まえて災害時の要援護者の避難対策の整備で、これを早急にやっていかないといろんな二次災害が発生する可能性が出てくる。課題は「避難対策の課題」「防災備蓄倉庫の不足」「聞こえにくい防災行政無線」「要援護者台帳の登録者数が増えない」ということが挙げられていて、これは消防と地域コミュニティが一緒になって取り組んでいかないといろんな部分で遅れが出て二次災害を招く可能性が出てくるので、この辺を踏まえて挙げた。各地域で防災マップを作っていると思うが、統一されたものになっていないと消防も例えばNPOなども動けないということが出てくるので、なるべくなら統一したものに変えていってはどうかということと、地域によっては方法どおりにはいかない部分も出てくるので、各地域にあったやり方も考慮しながらやっていかないといけないので挙げた。

防災対策は、「災害危険区域情報が周知されていない」「自主防災組織に固定的なリーダーが居ない」「防災訓練が形骸化している」「住宅の耐震化が遅れている」ということが現状で、それに向けての課題が「災害危険区域の情報の共有化」「自主防災組織の課題」「防災訓練実施の課題」「住宅耐震化の推進」ということで、防災組織の課題に関しては各地域によって差があるので、そういう部分で統一を図るということ。取り組み方針は「情報の共有化」で、「ハザードマップを活用した図上訓練の実施」は図上訓練も見ているだけではなくて実際に先生になっていろんな部分でやっていけると、その人のレベルも上がって地域の防災対策に対する取り組みも変わってくると思う。それから「区長が防災士の資格を取り継続させる」「役員がすぐには変わらない組織作り」は、すでに防災安全課でそういう取り組みもしているようです。「避難所開設訓練から繰り返し訓練を実施」するということで、何のための訓練か認識してもらうということで、なるべくなら全員参加をしてもらう。「行政、自主防災組織、消防団、の連携で耐震化を進める」ということで、耐震化がどういう部分でできていないかおおよそその段階でわかってきているが、これを計画的にやっていくことを謳っておかないといけないかなと感じる。

防災対策（２）は、「整備状況」「環境や社会情勢の変化」「土砂災害の危険性」「橋梁の老朽化」という現状を挙げた。課題は、「保安林指定上の課題」「治山整備要望が増えている」「河川、砂防事業の推進」「架け替え時期が集中する」「事業費が大きすぎる」ということ。課題に対する取り組みとしては「計画的な森林整備」「河川の統合的な治山治水」「砂防事業の推進」、これは県、国に働きかける部分も非常に多いのかなと感じる。「自然保護活動の支援」の一つは「かなぎ山の復活」で、雑木林をある部分で復活させてはどうかと思う。「森林組合との連携」、土砂災害の危険性に関しては「市、県、国など関係機関の連携、地すべり、土石流、傾斜地などの危険箇所の土砂災害防止の取組」「排水路の整備」。老朽化に関しては「優先順位を決め橋の耐震化推進」を行う。

防災対策（３）は、「大規模地震の備え」「施設、設備の整備」「消防団の確保」「救急救命士の養成」ということを現状に挙げた。課題としては「耐震化の遅れ」「避難所の整備」「家具転倒防止の推進」「経年設備の更新」「耐震防火水槽の整備」「新団員の確保」「団員の教育訓練」「不足の為、早急の増員」。課題に対する取り組み方針は「耐震診断の推進」「地域毎の分布を取り遅れたところの推進」「耐震防火水槽の増設」「消防水利の整備及び水路」「水利マップの作成」「消防団の地位向上、必要とされる消防団」「市職員の消防団入団の義務化」「部庫の統廃合促進、魅力ある部庫の建設」、これは各地域によって部庫があつて団員はいるが、例えば火事があつて出動する場合、最低人員が集まらないうと出ていけないので、そういう地域を統廃合して地域の有事に速やかに備えられるような体制作りをしていかないといけないということを意味している。「機能別消防団の充実」は、今各地域に機能別消防団があるが、その団員のレベルをもう少し上げるようなことができないかということです。「救急救命士の養成」に関

しては、「教育訓練の推進」「消防職員の募集要項に入れる」ということで取り組み方針とした。

防災対策（４）は「安全安心まちづくり基本計画による取組み」「身の回り危険箇所の排除」「交通事故の現状」「交通安全教育の現状」「通学路の事故が多発」しているということで、課題に関しては「地域安全ボランティアの高齢化」「空き家・空き店舗が増えている」「交通規制等調整に時間が掛かる」「啓蒙活動の推進」「保育園等回数が増えない」「老人倶楽部への指導が少ない」「歩道設置が困難」「道路の構造上改善が無理な所有り」という課題があつて、課題に対する取り組み方針は「防犯対策、設備面、ドアの防犯対策」「外出時の防犯対策」「街中での防犯対策、引ったくり、スリ、置き引き」「車上狙い対策」「振り込め詐欺対策」「悪質商法への対応」「空家・空き店舗の有効活用」「地域に密着した法令講習会の活用」「啓蒙活動」「警察、道路管理者、教育委員会、PTAの連携強化」「交通安全週間の活用」「社協の中で交通安全教育の実施」「通学路の安全対策の推進」と非常に多くてうまく上げられていない部分があるが、そこは行政の資料に含まれている部分がたくさんあるので、それを合わせてやっていただければと思う。

（丸山充信部会長） 今の発表に対して質問や意見交換をお願いしたい。

地域コミュニティの広報会長会連合会の課題で「広報会長の委嘱が区長の活動を制限している」とあるが、これは広報会長と区長は違うのか。

（加藤雄一郎委員） 今は兼任している。

（丸山充信部会長） これをやることによって区長の仕事が制限されるのか。

（曾我委員） 制限されるのは例えば選挙などで、広報会長は市から委嘱されているので選挙活動はできないが、区長も兼ねているので例えば地域で推薦する場合は区長の名前で書かないといけませんが、広報会長も兼ねているのでそういうことはできない。今は連合会の中で広報会長を辞めるという話が進んでいるので、来年４月には変わると思う。

（丸山充信部会長） 栗谷本副部会長の提案は「現在の経済環境の中で心の経済を大切にしよう」という表現のほうがいいかもしれない。

（栗谷本副部会長） 心の経済の教育をしたかった。

（丸山充信部会長） 田中委員の提案に「里山林」とあるが、そういう言葉があるのか。

（田中委員） 定義があるか知らないが、ニュアンスはかなぎ山とか里と山の間の部分という感じです。

（丸山充信部会長） それから「小さなところからはじめる地域木材の利用」は利活用としたほうがいいかもしれない。それから大分類の取組みの中に「地産地消」とあるが本当に地産で何ができているか知らない人が多い。地産地消が市民に理解されているかなと思う。この辺のPRが足りなくてお互いの知識が足りないのかなと思う。

波多野委員の提案の「生活基盤整備と環境保存の調和した都市」というキーワードだが、これは栗谷本副部会長と田中委員と同じような分類だと思う。やは

りこの辺に集約されるのかなと思う。それから墓地の需要は年間20基しかないのか。

(波多野委員) そういう説明だった。順番に増やしてきている。年間20基あると、優先権は新しい墓地がほしい人にあるそうだが、前もって注文した人もいるそうなので、待っている人もいる。

(丸山充信部会長) 11月に防災運動会をやるのか。

(曾我委員) 防災運動会と言っていた。

(丸山充信部会長) PRが足りなかったと思う。

11月の広報なかつがわで初めて入っていた。

要援護者台帳の登録者数が増えないというのはなぜ増えないのか。

(曾我委員) 各地域で支援マップ作りをやっていないと何かがあった時に、要援護者を助けに行くのには最低でも3人くらいが必要だが、その人に目を向けるということをやらないと、防災訓練にも要援護者を連れてきてもらうことまでやっておかないといけないと思う。

(丸山充信部会長) 残念なのは防災訓練が形骸化しているが、そのとおりだと思う。

住宅耐震化に予算はついているか。予算の消化は100%なのか。

(波多野委員) ついているが希望者が出てこないという話を聞いたことがある。

(丸山充信部会長) その辺りは調べてほしいと思う。

地元産材の利活用といって、市役所の設計士そのものが頭を切り替えてもらわないといけないのは、例えば18年前に森林組合の建物を造ったがなぜ鉄骨なのかと思った。森林組合がなぜ木材を使わないのかと思った。その辺も考えないといけないと思った。

消防職員は全員救急救命士の資格を持っているわけではないのか。

(曾我委員) 救急救命士の数は圧倒的に足りない。

(丸山充信部会長) 空き家についての市の対策が足りないと思う。私が顧問をしているNPO法人が空き家に関して話に行ったが話に乗らなかった。

交通安全教育の現状で保育園等回数が増えないとあるが確かに保育園は少ない。幼稚園はしょっちゅうやっている。

空家と産業部会の移住定住と絡んでくる。再生可能エネルギーや自然環境保全是林業振興や農業振興に絡んでくると思う。この2つを合わせてやっていかないとなかなかまとまらないかなと思う。再生可能エネルギーと地球温暖化対策のあたりは深く掘り下げてもいいのかなと思う。小水力・マイクロ水力発電は中津川市は他と比べると進んでいるのもっとPRしてもいい。中津川市の川は渇水したことがないと思う。

(栗谷本副部会長) 渇水していないということは奥山に自然林が残っていて、水が安定的に供給しているということでそれも林業に関係してくる。

(丸山充信部会長) 地域公共交通でコミュニティバスなどが出ているが、藤田保健衛生大学に行ったら四方八方からバスが来る。中津川市民病院は単発で来るぐらいの感じかなと思う。そこら辺を活用していくのも必要だと思う。例えば市民病院は指

定管理で民間にやらせた方がいい。民間は絶対に医者を探してくる。公共が何でもいいわけではない。

2. 防災・環境部会が考える将来都市像について

(丸山充信部会長) 防災・環境部会が考える将来都市像について説明願います。

～事務局 資料説明～

(丸山充信部会長) 市としてシデコブシなどの植物のデータベースはないのか。

(栗谷本副部会長) 団体でのちょっとしたデータはあるが、中津川市の独自のデータベースはない。7月に中津川市の環境団体連絡協議会を立ち上げ33団体が加入したので、そこで横の連携を取りながらデータを作る取り組みをしている。データベースがないと何が減って何が増えたのかわからない。例えば福岡町で校長先生をやっていた人が福岡町の植物のデータを作成したが、集約してあるというものはない。

(丸山充信部会長) し尿処理で衛生センターで、総合計画は38年度までのものだがどうするのか。

(木村企画財務課長) 恵北衛生センターで5年延ばしてもらえましたが、そこから先が不透明な状態になってしまうので、新しい施設を建設して中津川にある衛生センターと付知にある衛生センターを統廃合していくなら統廃合していくとか、そういう考え方を持っていけないといけないという考え方になると思います。

(丸山充信部会長) 取り組み方針に交通があまり触れられていないが。

(加藤雄一郎委員) 今、コミュニティバスをメインでやっているのは、昼間に高齢者が病院に行くためにというものと、坂下なら坂下だけの運搬をメインでやっているそうで、住民の声が中心になってくると思うが、例えば病院に行ったり要望のあるものに対しては個々で対応しているが、なかなか普通のボランティアになると保険の問題とかいろいろ絡みがあってその辺は今検討しているようだが、地区ごとの要望もあるしPTAとして学校の統廃合で遠距離通学の問題もあるので、スクールバスの問題とコミュニティバスと連携した中で考えていく方向で市は考えているようである。ただあまりこれを進めると事業者には負担がかかってくるので、その辺はよく交通事業者と話を進めていくということだった。

(丸山充信部会長) ボランティア団体やNPOをまとめた表は市にまとめた表があるか。県には出ているが、ここら辺に絡んでくるのがあるので整理したほうがいいと思うがどうか。

(加藤雄一郎委員) 中津川市の中心としてはないと思う。市役所本庁に来る場合は窓口がないのですぐには対応できないと思うが、窓口は必要だと思う。その他でいくと地域づくり協議会が各地域にあるので、今はそちらに相談して全体をまとめることになっている。ただ地区ごとにまとめるが全体的に連携するところがなく、どうしても単体でやってしまうので、まとまってできる大きいことができないので、そこは一つのところでまとめる中間的な窓口が必要かなと思う。

(丸山充信部会長) ボランティアのデータベースはないのか。

- (加藤雄一郎委員) データとしてはあると思うが、それを取りまとめて活用するところがない。
- (丸山充信部会長) 都会である仕事をしたときにアルバイトがたくさん必要だったが、フェイスブックでやったらあつという間だった。ボランティアもフェイスブックを活用したら集まるのではないかと思う。
- (加藤雄一郎委員) 去年婚活パーティを企画したがすごく大変だった。そういう支援センターがあると横の広がりができると思う。これからボランティアをやりたい人がいても、勝手にやっていいのかとか予算の問題とか志半ばで折れてしまうことがあるかもしれないので、それがそういうところに相談に行くことによって市民活動がやりやすくなって、それが活性化につながると感じた。
- (丸山充信部会長) 耐震性が不十分なものの数は昭和56年以前のもののか。
- (木村企画財務課長) 基本的に木造住宅でそうなります。
- (丸山充信部会長) 市庁舎は耐震化してあるか。
- (木村企画財務課長) まだ耐震化されていません。検討している最中です。
- (波多野委員) 見積もりはできているか。
- (木村企画財務課長) 正確なものはわかりませんが、いくつかのパターンでおおよそのものをとっています。
- (栗谷本副部会長) 防災の関係で携帯に火事のメールが入るが、行政防災無線が聞こえないという話があるので、あのシステムでそういう方法を取ることは難しいのか。
- (波多野委員) 登録していればできると思う。
- (栗谷本副部会長) そうすれば防災無線が聞こえなくても、携帯を持っている人は多いのでそれでわかると思う。
- (波多野委員) 市民が登録しないといけない。
- (曾我委員) 携帯電話を持っていないといけないし、登録している人も少ないと思う。
- (加藤雄一郎委員) 統計は出ているか。
- (木村企画財務課長) 多分わかっていると思います。
- (加藤雄一郎委員) 子ども見まもり会議の中で、いかに市民の末端まで届く連絡方法はあるかということが出たが、区長会長が言われるには一番見られているだろうと言われる回覧板でも3割くらいしか見られていないのではないかとのことだった。広報なかつがわも3割くらいではないかということで、それではどうしたら広がるかで、基本的には防災無線と防災メールの活用ということになった。地域によってはケーブルテレビを推奨しているが、中津川市は取り組んでいないか。
- (木村企画財務課長) 川上だけ難視聴の関係でケーブルテレビを導入しています。
- (加藤雄一郎委員) 中津川市として予定はないか。
- (木村企画財務課長) 中津川市としては光ファイバーを引いて、高速通信でインターネットができるようにして情報の伝達を図っています。
- (加藤雄一郎委員) 光通信は線を引いただけでどうしても高齢者やパソコンに詳しくない人は設置できないので、他の地域でケーブルテレビをうまく活用して成功していると聞いたので、光の伝達がしっかりしていれば今後ケーブルテレビも視野に入

れて考えていくと、防災や産業のほうで発展があると思う。高齢者で携帯電話を持っていないがテレビを置いている人は多いと思うので、そういうところから中津川市の情報番組が常に流れているところがあれば見てみようかなと思う人はいると思う。

(栗谷本副部会長) ケーブルテレビはあるべき姿だと思う。防災だけではなく地域の隅々まで取材して、人材とか森とか川とかいろんなことを流すことで、中津川の隅々まで発信するということではケーブルテレビは非常に有効だと思う。

(加藤雄一郎委員) 市民の関心も高まるし、取材された人を同じ市民も見たいし応援したくなると思う。そしていろんな企業がくっついてくるとかなりの需要があると思う。予算がかかるというよりも受益者負担の中でうまく広告媒体を考えていけば、将来的には採算ベースに十分乗ってくるのではないかなと思う。

(栗谷本副部会長) 防災対策で、中津川の災害は四ッ目川災害以外に大きな災害がないので、市民全員に災害が発生しないという安心感が刷り込まれている。その辺を払しょくするようないい取り組みがないか。そういうことで市民に意識づける取り組みがいると思う。

(丸山充信部会長) 現総合計画は合併後に作ったのか。

(木村企画財務課長) 合併後に作っています。

(丸山充信部会長) 文章で訂正、修正があれば事務局へ言ってもらって、コミュニティバスは触れてもらって、あとは部会長と副部会長と事務局でやることでいいか。

(曾我委員) 空き家空き店舗が増えていて、中津川市がこれからに向けて条例を策定していくことまでやっていかないと安全にはならないような気がする。多治見市は既に条例制定されていて、空き家は何年経つと取り壊しとかそういうところまでやっているようである。それぐらいまでやらないとこういう問題はいつまでもなくなるので、ここで謳っていくといいと思う。

(木村企画財務課長) 多分全国的な問題で、個人資産を行政が税金を投入して壊すことが一番のネックになっていると思います。聞いたところでは東北のほうで雪下ろしの関係で特に問題になっているようで、1自治体だけが強制的に行政が取り壊して、その代金をその所有者に請求するという条例があったと思います。そこまで踏み込めるかどうか難しいと聞いたことがあります。中津川市として条例を制定するときどこまで強制力を持った条例ができるかが問題になると思います。一度その辺りを調べて取り組むべき案件であれば盛り込みます。

(田中委員) 空き家に定義はあるか。日常的に住んでいないとか、日常的というのはどれくらいが日常的なのか。

(曾我委員) 完全な空き家ではない場合がある。例えば他に生活圏があって両親が中津川市にいたが、亡くなってしまっても家はそのままあるので、半年に1回くらいは見に来ているが、周りは草が生えていて危ない。特に田舎に行くほどそういう家が多い。連絡するといずれは帰って来ると言われるがいずれとはいつかと聞かないといけないことがあり、その地域では困っていることもある。

(波多野委員) どの町内にも1軒や2軒はある。

(栗谷本副部会長) 市が全面的に仲介業者のようなことをしてはどうか。

(波多野委員) 全国的に話題になっているので、公的にできそうな気がする。

(田中委員) 私はIターンで家を探したが、たくさん空いているが実際に貸してもらうということがなかなか難しかった。例えば仏壇があるとか何年後かの定年後に帰ってくるとかで、空き家というのがどれくらいのものをいうのかなと疑問に思う。

(曾我委員) 神坂では空き家を探して修理して入った人が3件くらいあるが、もう手を入れられないような家のほうが多い。そうすると廃屋のようなところが多くてそういうところを何とかしないといけないと思う。そこをきれいにすれば宅地で使えるので、その分を宅地で買えば少しは安く買える。神坂でUIターン住宅があって6戸入っているが、その人たちは神坂で家を見つけるなり建てて住んでもらう条件で中津川市がつくった。そういう人たちと話し合いをして家を見て回ったが、どうしても値段的に合わないところがある。神坂は不便さはあるが住むにはいいところ。

(丸山充信部会長) 大体家は2、3年人が入らなかつたら崩れる。

(田中委員) 入ってもいいと言われる家は新築くらいに直さないと住めない家になっている。

(丸山充信部会長) あと足りないところを入れてもらって、部会長、副部会長で確認するというで一任いただいてよろしいか。

～異議なし～

3. 今後の取り組み方針について

(丸山充信部会長) 今後31日に会長、副会長、部会長、副部会長の会議があるので、そのあとに進めていけばいいと思う。答申を出すにあたって皆さんの意見をなるべく反映するようにしてほしいと思う。

(木村企画財務課長) たたき台の後ろに1枚皆さんの提言の中で大事だと思われるものを部会長と副部会長と相談していただいて入れるようにします。3部会を取りまとめて一つの将来像を出した時に下地が落ちてしまつてはよくないので、ちゃんと提言する内容を入れるよう後ろに付けて出すような手配をします。

(丸山充信部会長) 皆さんの意見が反映されるような答申を作ってもらうようお願いしていきたいと思う。あとはある程度部会長、副部会長に一任していただきたいと思えますのでお願いします。

11月は皆さんと日程調整して進めていきたいと思います。

午後8時24分 閉 会

防災環境部会長

丸山充信

平成25年12月18日